

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	*	*	*
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・新たな商業施設の開店後、商店街入口の両側に核となる店舗ができたため、入込客の回遊性を期待できる。マスクミが取り上げたこともあり、久しぶりのにぎわいであったが、1か月を過ぎて落ち着きが出てきている。今後も引き続きにぎわうかは不確かである。
	○	一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・3か月前の緊急事態宣言が出ていたときに比べるとやや良くなっているが、まだ悪い状態である。
	○	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・帰省がない、距離のある場所への旅行を控える、自宅で過ごすなど、夏休みやお盆の過ごし方に変化があり、特に総菜やグロッサリー、スイーツといった自宅で食べる食品や、機能寝具、リラクシングウェアなど生活用品の売上に伸びがみられる。
	○	百貨店（販売担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの第1ピーク時との比較では良くなってきているが、来客数は前年比で90%程度と苦戦している。お盆に地元客の集客を期待したが、帰省客を含めた移動の減少や気温上昇による外出控えが重なり、来客数及び売上は90%程度であった。8月後半は、新型コロナウイルスの感染拡大、気温上昇の継続、秋物商材の入荷遅れなどで集客もできず来客数が減少している。中高年世代の客だけでなく、30～40代の客の来店や購入も減少している。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価が引き続き高いなか、少しずつ来客数が戻ってきている。
	○	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・新型コロナウイルス第1波の期間との比較では若干良いものの、前月と比較して大幅に悪化している。経営的には第2波の影響を受けている。特にお盆の帰省自粛と夏休みの短縮から、前年に比べ来客数が大幅にダウンしている。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・猛暑が続き、8月に入ってもエアコンの販売が好調である。
	○	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・外出控えからくる住環境の見直しや、外食控えからくる嗜好品に向けられた消費の増加などが販売量の動きの要因と考える。
	○	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・3か月前の5月は新型コロナウイルス禍の真っただ中で、外出自粛のため外食する消費者が極端に少なかったが、現状は新型コロナウイルス禍での新しい生活様式が徐々にだだ定着し始めており、外食する機会も少しずつ増えている。
	○	観光型旅館（経営者）	単価の動き	・県民割引やGo To Travelキャンペーンなどの宿泊補助金制度のお陰で、露天風呂付き客室を始め単価の高い部屋の稼働が良い。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・3か月前が最悪の状態であったが、6月以降は夜の街も休業が解除されて、一般の人々の自粛ムードも徐々に和らぎ、やや良くなっている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・高齢者の買物や通院での外出が大分戻ってきたと感じる。しかし、県外からの出張者が少ない。夜の繁華街は相変わらず閑散としている。
	○	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・例年なら新商品発売に向けて買い控えが発生しているが、今のところそのような傾向はみえない。また、新型コロナウイルスの影響も収束してきたようにみえる。
	○	競輪場（職員）	来客数の動き	・3か月前の5月は営業そのものが困難であった。現在は規模縮小などの対策を講じながら営業しているため売上を計上できているが、来客数や客単価は前年を下回っている。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響が地方でも色濃く出てきて、陽性者が出たという報道で客足が極端に悪くなり、売上の減少に直結している。
	□	家電量販店（本部）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で売れていた商品が落ち着いてきている。

□	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・販売については軽自動車を中心に増え始めたが、業界全体では買換えせずに車検をして乗り続ける人が多いようである。
□	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・大手自動車メーカー系列の当店では、5月より一部車両を除き、併売化により新たな車種を取り扱えるようになったため売上は増加しているものの、他メーカーにおいては依然として新型コロナウイルス感染症の影響で前年を大きく割り込む業績となっている。今の好調は長く続くものではないとみている。
□	その他専門店 [酒] (経営者)	来客数の動き	・東京オリンピックもなければ、イベントも何もない。大変寂しい8月である。
□	その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	来客数の動き	・3世代家族やファミリー層などが減少しており、単独、少人数での来店客が目立つ。夏休みの短縮、お盆の帰省自粛などの動向が影響していると考ええる。
□	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で県外旅行者や組合及び協会関係の懇親会や接待利用などが低迷しているため、例年の50%ほどの来客数で推移している。
□	一般レストラン (店長)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染の落ち着きや、宿泊の県民割引などの施策で少し回復してきたかと考えている。しかし、テイクアウトは増えているが、単価の高い夜の客がほとんど戻っていない。
□	旅行代理店 (所長)	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンが開始されて起爆剤となり、旅行需要が増えることを期待したが、新型コロナウイルスの感染拡大傾向に水を差された状況である。現状は自粛して県内や近県の旅行にとどまる傾向が続く感じである。
□	通信会社 (役員)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の第2波で、3か月前と同様に営業活動を制限しており、契約数が例年の同月に比べて減少している。
□	その他レジャー施設 [スポーツクラブ] (総支配人)	お客様の様子	・まだまだ新型コロナウイルスの感染を意識せざるを得ない雰囲気が客にまん延している。近隣で感染者が出るたびに、それに反応して利用の中止や休会、体験入会の取りやめが出ている。
□	美容室 (経営者)	それ以外	・高齢者の来店サイクルが伸びている結果、来客数は前年より5%ほどダウンしているが、商品販売は好調で前年売上をキープしている。各自治体が発行している需要喚起策の買物クーポン券の利用が多くなっている。
□	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・新規分譲地の販売も一段落し、例年と変わらぬ受注量となっている。他社動向をみても新型コロナウイルス対策をしながら営業活動を展開しており、今のところは平年並みを維持できると考える。
□	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・客は動いているが、同業他社との販売競争が激しくなっている。
□	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・新型コロナウイルスのクラスターが発生し感染者が増え始め、客の動きが鈍くなっている。
▲	一般小売店 [事務用品] (店員)	販売量の動き	・販売実績、利益共に減少している。
▲	一般小売店 [鮮魚] (役員)	販売量の動き	・8月に入ってから東京を筆頭に感染者が再び増加し始めている。そのため外出制限や自粛ムードが広がり、経済的にも人の動きが停滞してしまっている。お盆休みも過去に例がないくらいひどかった。
▲	一般小売店 [書籍] (従業員)	来客数の動き	・今月に入り新型コロナウイルスの影響がまた大きくなっており、来客数の減少が顕著に表れている。
▲	スーパー (店長)	来客数の動き	・ディスカウント系ドラッグストアの出店が続く、来客数を大きく落としている。今後も出店の予定があるため、やや悪くなる。
▲	スーパー (総務担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの関係で、副業をする人が増えているように感じる。
▲	コンビニ (経営者)	販売量の動き	・自粛による影響がある。
▲	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・地方でも新型コロナウイルスの感染者数が増えてきており、外出の自粛が続いている。

	▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・猛暑及び新型コロナウイルスの影響で厳しい状況が続いているが、新型車発売の効果で週末の来客数は回復しつつある。
	▲	自動車備品販売店 (役員)	お客様の様子	・来客数は前年から比べると減っているが、この数か月間は変化がない。しかし、自粛ムードから遠出の自動車使用が少なくなったためか、メンテナンス商品のタイヤやオイル交換の販売は激減している。ガソリン販売も同様の動きである。
	▲	観光型旅館 (スタッフ)	来客数の動き	・前年比で総売上は115%、宿泊人数は126%、宿泊単価は104%である。7月は県民宿泊割引により前年を上回ることができた。新型コロナウイルスの感染予防で3密防止対策を実施しながら受け入れている。また、団体客が皆無で個人客中心のため、一部宿泊施設をクローズして営業している。
	▲	通信会社 (店舗統括)	販売量の動き	・やや悪くなっている理由を販売量としたが、来客数自体も減っている。これといった目玉商品がないこともあるが、新型コロナウイルスと暑さの影響が大きい。
	▲	住宅販売会社 (営業)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染の再拡大が影響し、お盆前から客足が鈍っている。
	×	商店街 (代表者)	来客数の動き	・人出への影響が大きく、新型コロナウイルス感染者数の発表に一喜一憂の毎日である。感染者の年齢が上がっているため、高齢者の姿が顕著に少なくなっている。
	×	商店街 (代表者)	来客数の動き	・お盆休み期間の来客数は通行量を含め、前年と比べると壊滅的である。7月の4連休の方がまだ良かったというのが率直な感想である。お盆休み明けは酷暑も重なり、歩いている人もまばらである。
	×	百貨店 (売場主任)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大と猛暑のダブルパンチで外出を控える人が多く、来客数が減少している。また、マスクの着用により目元しか化粧をしない女性が増えているため、化粧品の売上が低迷している。前年の8月は消費税の引上げ前の駆け込み需要により前年比で10%増加と好調であったが、今年はその反動で7月よりマイナスが拡大し、前年比で10%減少の見込みである。
	×	スーパー (店舗管理)	来客数の動き	・周辺の老舗飲食店の閉店や仲卸業者の廃業が相次いでいる。
	×	スナック (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が周辺の接客している店で発生し、休業している店もあるということである。前年同月比で半分の売上で悲鳴を上げている。体力勝負であるが、いつまで持ちこたえられるか分からない。
	×	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・新型コロナウイルスによる外出の自粛、集会や宴会の自粛が続き、Go To Travelキャンペーンでも人は動かない。宿泊部門の売上は8割減、宴会部門は9割減、レストラン部門は6割減である。地元客の動きは多少感じるが、県外からの移動や県内であっても会議や宴会がほとんどない状態が続いている。
	×	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・8月の新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響もあり、向こう3か月間の予約状況が大変悪くなっている。前年同期比で20%台の水準である。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	税理士 (所長)	取引先の様子	・緊急事態宣言が出ていたことで非常に厳しい状態だった事業体が、3か月前に比べると良くなっている。今のところ製造業、建設業の関係は、新型コロナウイルス感染症による落ち込みがなく続いていることから、全体としては3か月前と比較すると良くなっているという感じである。
	○	建設業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・公共工事の発注が増えてきて、当社も受注ができてきている。新年度に入り工事が発注されてきたという意味では、例年どおりではある。
	□	不動産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・現在、業者関係の情報がかなり止まっており、一般の問合せが全く出てこないという状況である。

	□	司法書士	取引先の様子	・前年から準備が進んでいた企業買収が1件中止となった一方、前月に買収完了となったものが2件ある。
	▲	食料品製造業 (経営企画)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で大きく落ち込んだ業務用も前月辺りは確実に回復傾向であったが、8月に入って再び大幅な前年割れとなっている。引き続き市販用が好調とはいえ、その穴は全く埋まらない。普通の夏と普通ではない夏の業務用需要のギャップを痛感している。
	▲	プラスチック製品製造業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による自粛や経済活動の停滞により、個人消費のみならず企業業績にも大きな影響が出ており、受注、販売共に厳しい状況が続いている。
	▲	一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響で、営業活動が十分に行えない状況が続いている。受注金額は前年同月比で米国は70%、欧州は30%、国内は50%である。
	▲	精密機械器具製造業(役員)	取引先の様子	・6月以降、一旦は予想以上の回復の兆しがみえたものの、再び新型コロナウイルス感染者急増の影響で、客によって差はあるものの、全体的には再び回復のペースが鈍化した感がある。
	×	繊維工業(経営者)	取引先の様子	・繊維工業は衣料のウエイトが高い。前年10月に2%の消費税の引上げがあり、さらに今年の冬は暖冬で、天候に敏感な冬物衣料の売行きが非常に悪かった。それに加えて、新型コロナウイルスの感染拡大が追い打ちを掛けている。幾つもの条件が重なって悪い状況である。非衣料分野については、低位安定である。
	×	建設業(役員)	受注量や販売量	・今後の先行受注は減少傾向である。
	×	金融業(融資担当)	取引先の様子	・取引先の第2四半期の業況は、第1四半期との比較で更に悪化している。投資計画の予定もなく、業務も縮小させながら様子見の状態が続いている。
雇用 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	人材派遣会社(役員)	求職者数の動き	・有効求人倍率が低下している。求職者の派遣登録も少ない。
	□	新聞社[求人広告](担当者)	周辺企業の様子	・ウィズコロナのフェーズに入り、人の動きは次第に戻りつつあるが、景気が上向いたというところまでには至っていない。皆どこかで不安を抱えながらの生活で、財布のひもは固いままの印象を受ける。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・全産業において求人数は、新型コロナウイルスの影響で前年より大幅に減少している。特に、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービスの減少が大きい。これらの産業は客足の戻りが依然として悪く、関連する卸売業、小売業にも連鎖して影響を及ぼしている。
	□	民間職業紹介機関(経営者)	求人数の動き	・6～8月は民間企業の職業紹介や人材派遣の新規求人がほとんどなく、官庁の見積依頼と入札が少しあるくらいと落ち込んでいる。
	▲	新聞社[求人広告](営業)	周辺企業の様子	・全体的にはどの業種も変わらず悪い印象を受ける。ただし、家電量販店やドラッグストア、医療関係の一部で前年よりも良いという声が出ているので、3か月前よりもやや悪いと評価する。
	▲	学校[大学](就職担当)	求人数の動き	・前年の同時期に比べて、求人を行う会社数が少ない。
	×	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・1回当たりの発行で掲載件数がかなり落ち込んでいる。
	×	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響で退職者が増え、求職者の不安感が増している。